

高野晃兆氏の逝去を悼む

水垣 渉

した。友情厚き氏の世話が忘れられない同窓生は少なくない。また氏が瀬田川にある京大漕艇部（ボート部）のコーチを長く勤めていたことも、忘れられない。氏の滞（滞）はいつまでも消えぬであろう。
（かつての級友水垣渉）

本学会会員、大阪府立工業高等専門学校名誉教授高野晃兆氏は、二〇一九年四月十四日、パーキンソン病との闘病生活ののち逝去された。享年八十三歳。氏は大阪出身、吉高校から京大文学部に入學、基督教學を専攻。一九六四年に博士課程を単位留得退學された。その間、有賀鐵太郎、武藤一雄の両先生のもとで旧約を研究、その後マックス・ヴェーバー研究を経て全生涯をトレルチ研究にささげ、その成果は京大博士論文「E. トレルチの『キリスト教の諸教會と諸集團の社會教説』について——『社會學的基本圖式』から見て——」（平成二〇年）と『社會教説』の翻譯とに結実した。ことに氏の『社會教説』研究は、トレルチが言及する全文獻にさかのぼってその思想を解明しようとした徹底的なものである。氏は京大をはじめ関西のいくつかの大学で非常勤講師を務めるとともに、キリスト教學教室と京大キリスト教學會の共同體形成を絶えず心にかけて尽力